

編集後記

ラグビーがこんなに面白いとは思わなかった。9月20日から始まったラグビーワールドカップ2019日本大会を観戦した率直な感想で、今まで馴染みのなかった方の多くがおそらく同じ気持ちではなかろうか。力がぶつかり合うスクラムから隙間について走り抜けるトライまで、見ているこちらにも手に力が入るし、ワクワクする。ましてや日本は破竹の3連勝！ 第2戦では世界ランク2位だったアイルランドに勝ってしまったのである。もう応援するしかない。勝負もさることながら、試合が終わった後の選手たちの姿も気持ちが良い。ノーサイドとともに勝ち負けを超えてお互いをたたえ合う様子は何とも清々しい。すっきりとわかファンになってしまった。頑張れニッポン！

さて、今月の特集テーマは東都文京病院の玉井和哉先生にご企画いただいた「リバーズ型人工肩関節」である。従来の人工肩関節置換術では対応が難しかった病態、特に腱板断裂性関節症に大きな効果を発揮する。わが国への導入は比較的最近ではあるものの、欧米における開発の歴史は古く、1970年代まで遡る。第1世代から現在の第3世代に至るまでの歴史を橋口氏にご紹介いただいた。効果の反面、合併症も少なくないことが予想されたため、「リバーズ型人工肩関節診療ガイドライン」がいち早く作成された。山門氏には

ガイドラインにおけるRSAの適応、合併症対策、実施基準についてご紹介いただいた。現在本邦で使用可能なRSA機種は8種類である。大泉氏にはそれぞれの特徴と選択の仕方について示していただいた。松村氏には実際の手術手技のコツを、林田氏には関節窩骨欠損例への対応について、また設楽氏には最も重要なRSA手術合併症とその対策について述べていただいた。落合氏、伊崎氏、内藤氏には具体的な疾患である腱板断裂症性関節症、骨折、関節リウマチのそれぞれの観点からRSAのコツを記載いただいている。最後に永井氏よりRSAの将来展望についてまとめていただいた。

腱板断裂症性関節症や一次修復不能な広範囲腱板断裂の治療には難渋することが多かった。通常の人工肩関節では痛みは軽減しても、なかなか腕が挙がらない例が少なくなかったのである。RSAがわが国に導入されて約5年、多くの良好な短期成績が報告されている。治療の選択肢が広がったことは間違いない。しかしながら臨床使用が先行している欧米では長期経過後の問題もあると聞く。今後、RSAのエビデンスがさらに蓄積され、肩関節疾患の患者さんの福音につながることを期待する。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第62巻 第12号 (11月号) 2019年11月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 2,500 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) [年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。